

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 文学部

組織目標		達成状況(成果)		
教育	<p>①高校教育と学部教育との接続カリキュラムを策定する。 とくに、1年次生の科目が接続教育の機能を果たし、専門教育へのスムーズな橋渡しになるようなカリキュラムのシステムを構築する。</p> <p>②学生とのコミュニケーションを高め、勉学、教育環境等の改善を図る。 とくに、学生との対話集会、新たなアンケート等による意見集約の機会をつくる。またガイダンス、支援マニュアル等の充実を図る。</p> <p>③国際交流にもとづく学生への教育支援 交流協定にもとづく新たな学生交流制度を確定するとともに、留学生に対する教育面での充実を図る。</p>	<p>①1年次用の科目として、(a)「人文学入門」、(b)「同演習」、(c)「人文学への招待」を従来の基礎科目にかえて新たに策定した。特に前期に専門分野の概要紹介(c)を導入することでコース選択の指標とした点は大きな改革である。さらに2年次科目である「概説」のいくつかを1年次に下ろすなど、専門へスムーズに導入できる教育システムを構築することができた。</p> <p>②従来から行っている新入生との対話集会(懇談会)に加えて新たに2-4次生との懇談会を開催した。これによって各学年の要望をくみ上げ、授業方法・単位やコースの問題など教育の改革に役立てた。またキャリア教育改善のため、資格取得などに対するアンケートを新たに実施して有益な資料が得られた。さらに学生(障がいのある学生を含む)への支援マニュアルの作成方針が決定できた。</p> <p>③協定校であるホルト-第3大学や成均館大学との学生交流を量(人数)質とも拡大することができた。21年度の新しい試みとして留学生と日本人学生とが共に学ぶ特別プログラムを開始させ、効果を上げている。また成均館大学との関係では学部長の相互訪問を行い、交流拡大を図った。さらにフランクフルト大学との人的・情報交流を行ない、22年度交流協定締結に向けての地盤固めを行った。また国際交流促進の一環として外国語力を高めるための副専攻コースセミナー(必修)を開催した。</p>		
	達成度： ④ 3 2 1			
研究	<p>①第2期中期計画において学部が継続的に推進する共同のプロジェクト研究を策定するとともに、その具体化に向けたプロジェクト研究に対し財政的支援を行う。また、学部におけるプロジェクト研究支援制度の見直しを図る。</p> <p>②国際研究会、国際的なシンポジウム等を積極的に開催し、その成果をまとめる。</p> <p>③教員のこれまでの研究成果・資料を資料室等に集約・整理し、必要に応じてPDF化し公開を図る。</p>	<p>①22年度より開始する文学部プロジェクト—a)東西文化の交流、b)島嶼の生活と文化、c)言語とコミュニケーション(仮題)—を策定した。a) c)については21年度に試行プロジェクトとして部局長裁量経費をもって財政支援し成果をあげた(4月中に成果報告書提出)。また第2期でのプロジェクト研究の制度の新たな要項を作成した。</p> <p>②国際シンポジウムや国際研究会・講演会等の開催は6件(うち1件は社文主催)にのぼり、研究面での国際化が促進された。しかも多くの会を公開としたため地域貢献にも繋がった。「平塚らいてう」に関する国際シンポジウムについては1月に42頁の報告書を刊行した。</p> <p>③1号館415号室を文学部資料室とし、文学部紀要、研究叢書、プロジェクト報告書など、教員の研究成果を収集し整理した。文学部プロジェクト報告書のPDF化は図書館を通じて完成し、公開している。これらの事業により教員の研究環境を整備することができた。</p>		
	達成度： ④ 3 2 1			
社会貢献	<p>①公開講座を年1回以上開催する。</p> <p>②高大連携事業を推進する。 ・出前講義、授業公開、学部説明などの活動を行う。 ・岡山県高等学校教育研究会との共同事業として、地歴公民を中心に意見交換会、研修会、研究授業支援などの連携活動を推進する。</p> <p>③免許更新講習会への講師派遣を行う。</p>	<p>①文学部公開講座を6月7月に6回開催した。受講生114名、修了者75名であったが、これは20年度を上回った。アンケートの結果、講座全体を通しての満足度は「とても満足」「まあ満足」合わせて89%になり、非常に高く好評であった。また文学部教員は社文の公開講座にも参加した。また研究②のシンポジウムや集会も多く公開とし、社会貢献事業とした。</p> <p>②延べ45人の文学部教員により32件の高大連携事業(出張講義、出張学部説明、出張教育指導、大学訪問、オープンキャンパス等)を行った。対象高校数29校、生徒総数3100名であった。地歴公民の高大連携事業では、県の教育研究会部会と本学部専門委員会の教員とで研修会や意見交換会を開き、さらに高校での研究授業の支援も行った。</p> <p>③21年度は、「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」の免許状更新講習に対して、文学部の教員20名が11講座を開講し、最新の知識・技能を多方面にわたり教授することができた。</p>		
	達成度： 4 ③ 2 1			
客観的指標	事項	前年	今年目標	達成状況
	学部入試倍率	4.18	前年度の倍率を確保する	4.25
	大学院充足率			
	科研費申請率	76.1%	前年の申請率を上回るようにする	70.40%
	科研費採択率	22%(新規分)	前年の採択率を上回るようにする	21.9%(新規分)
	共同研究件数	0	獲得に努める	
	受託研究件数	0	獲得に努める	
	留年・休学・退学者数	留年:47,休学:25,退学13	(今年の状況) 削減に努める	
就職率	90.90%	90%以上を確保する		
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。				
<p>教育①のカリキュラム策定は、第1期(16年度)に行った改組の見直しでもあり、また研究①の3大プロジェクトの策定は、第1期の3大プロジェクトを踏まえた新たな計画である。いずれも着実な策定ができ、目標を十分達成できた。これにより次年度以降第2期へのスムーズな橋渡しをすることができた。教育③、研究②の国際化については、本学部が力を入れている取組であるが、多くの教員の献身的な協力により十分な達成が得られた。社会貢献では、②が予定の目標を上回って達成されたものの、新たな貢献事業を策定する必要がある。総じて、どの目標も十分達成されたと思われる。ただし、科研費申請率が低いのは問題である。次年度に向けては、今年度策定のカリキュラムの実行度を検証すること、教育研究面での新たな国際化への取組を推進すること、3大プロジェクトへの支援のあり方、科研費申請率アップの方策などを検討していく必要がある。</p>				

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)